

「牛がうまれたよ」

や ず ちょうりつこおげひがしょうがっこう ねん
八頭町立郡家東小学校 2年

なかむら さよ
中村 沙葉

「おうい、牛がうまれるぞ。」

牛しゃ中に、お父さんの大きな声がひびきました。えっ、本とう、早く見たいな。いそげいそげ、うまれちゃう。わたしは、かけ足で牛のいるところに行きました。そこにいたのは、白と黒のお母さん牛。なんだかくるしそうによこになっています。よく見ると、牛のおしりのあたりから、ふくろのようなものが出ています。どうめいなふくろの中に、赤ちゃんの頭が見えました。しばらくすると、足も見えてきました。まわりいにたおとなの牛も近づいてきます。しんぱいしているのかなと思いました。

ふくろがぜんぶ出てしまうと、お父さんが手でふくろをやぶりました。中から、お母さんにそっくりの白と黒の赤ちゃん牛が出てきました。体はぬれていて、ぶるぶるふるえています。人げんの赤ちゃんみたいにならないりしません。わたしは、そっと体をさわってみました。ひんやりつめたかったです。だいじょうぶかな、さむいのかな、ちゃんと立って歩けるのかなとつぎつぎしんぱいなことが出てきます。すると、お父さんが、くすりのようなものを子牛のおなかにスプレーしました。しばらくすると、子牛は自分の力で立ち上がりました。まだ少しふるえていたけれど、ほっとしました。

わたしのお父さんは、ぼくじょうをしています。牛は、百頭い上います。お父さんは、まい朝六じ半にはしごとをはじめます。毎日牛のようすを見たり、えさやりやさくにゆうをしたりと、本とうにいそがしそうです。お父さんは、ちょうしのわるい牛を見のがさないよう、毎日同じじかんにえさやりやさくにゆうをしています。とくに子牛がうまれるときは、何でも何でもようすを見に行きます。

わたしは、牛が大すきです。これからも、牛が元気にそだつようお手つだいたいしたいです。